

第23回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	女性と防災の会
開催日時	2022年2月5日 13:30~15:00
テーマ	高橋治郎先生に学ぼう 防災マップに見えていない危険 「あなたの周りの災害（地震）リスクは？」
形式	オンライン
講師等	愛媛大学防災情報研究センター客員教授、愛媛大学名誉教授 高橋 治郎

〈内容〉

①「まちなか防災さんぽ」実施報告

11/20 コムズ～市駅界隈をCIL 星空の障害者の方々を含む総勢22人で防災散歩を実施。大地震を想像しながら歩いて気が付いた街中の危険や感想を画像と共にまとめて報告した。

②高橋講師の講話

1日の中で最も長くいる場所は自宅だが家の中の安全はどうだろう。自分の住む地域を歩いて知ることや防災マップ作りも大切。近未来に起こる南海トラフ地震に自分の命をどう守るか“備えないと困るのは自分だ”と話された。

③「わが家と地域の防災チェック表」（仙台市）分科会前の調査結果報告

防災意識を問うチェック表を仙台市の許可をもらい分科会開催前に実施。防災マップの活用は高い一方、窓ガラスや戸棚の飛散防止フィルムは進んでいない。食料や水の備えのほか全員がカセットコンロやボンベの準備していることが分かった。マイタイムラインを作っている人は少数。近所との顔の見える関係は進んでいるが、高齢者や障害者の支援方法を地域で話していないという現状が浮き彫りになった。

④質疑応答

危険地域の指定避難所を変更したいとの問いに、地域住民で話し合い行政に働きかけていくことが大切だと講師の助言があった。

〈まとめ〉

1/22 未明に発生した日向灘地震。緊急地震速報のアラームから揺れまでの約20秒をどう動くかと高橋講師の話はいつも防災を自分事として考える仕掛けがある。そんな講話を多くの方々にお届けしたいが、ウェブ環境がないオンラインは苦手という方もまだまだ多い。とはいえ当会も初のオンライン開催で不馴れゆえの不手際で反省点は多い。一方で、参加者もまた不慣れなことも事実だ。

また、ウェブを活用した事前調査や分科会終了後のアンケートも初の試みで、特にその効果を実感したのが③で報告した防災意識調査だ。この経験からウェブ活用も活動ツールの一つとして考えており、コロナが収束すれば対面型+オンライン配信の学習会をぜひ開催したい。

終わりに、障害者の方々との防災散歩は貴重な体験となった。日ごろ接することの少ない彼らの目線が防災には必要だと実感し当会の視野は広がった。この気付きは新聞を通じ市政に届けられたことは大きな一歩と考える。



高橋講師スタンバイ中

※この報告書は、当財団のホームページに掲載させていただきます